

令和7年12月 市長定例記者会見

2025年11月21日(金)

午前11時00分 開始

【広報広聴課長】 それでは定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 今日、12月議会の招集、告示をさせていただきました。会期は12月1日月曜日から12月22日月曜日までの22日間ということになります。

本日の発表事項でもあります12月の補正予算ですとか、それから一般議案を上程させていただくことになります。

いつも私、申し上げているんですけども、議会に対しましては、こういった議案についても丁寧に説明をしていきたいと思っておりますし、また、一般質問などを通じて、いろんなご提案もいただいて、我々の施策が本当に有効なものになるように、深みが出るように、しっかりと議論を重ねていきたいと、そういう議会になるといいなと思っています。

それから、最近のお話をさせていただきますと、年末に国の予算編成をやっておりますけれども、いろんな要望活動、関係の皆さんと一緒に東京のほうへ行っています。11月も道路整備ですとか、あるいは北陸新幹線、それから敦賀港の整備など、我々敦賀に必要な支援をしっかりと予算的に確保するため、今後も積極的に働きかけをしていきたいと思っています。

それから行事予定ということになりますけれども、12月6日の土曜日と、それから7日の日曜日、大好評をいただいた昨年度に引き続きまして、「Out of KidZania in つるが2025」を開催いたします。敦賀にとって将来の担い手となる子どもたちに、地域を支える様々な仕事を知っていただく。それを疑似体験していただいて、地元の会社さんの、それからそういった職業の魅力を知ってもらい。理解も深めてもらい。そこに保護者の方もいらっしゃるといような場になりますので、このイベントを通じまして、企業、それから団体とも、我々も連携をして、次の世代を担う人材育成に努めていきたいと思っておりますし、こうやってみんなで協力して敦賀の未来をつくっていききたいと思っております。また、取材等、ご協力のほどよろしく願いいたします。

冒頭の挨拶については以上です。

【広報広聴課長】 それでは続きまして、事業発表に移ります。令和7年度12月補正予

算案の概要について、お願いいたします。

【市長】 それでは、今回の補正予算ということで申し上げます。予算規模については、ここに書いてあるとおりで、人事異動に伴う人件費の調整というのもございますし、また、前回補正予算から後、予算措置が必要になったものについて計上しているということです。

中身なんですけれども、まず公民館の整備ということで、老朽化が進む西公民館の移転新築というのは、これまで地元の方々のいろんな協議をずっと重ねてきたところなんですけれども、いよいよ移転新築だということで、令和9年度中の供用開始を目指しまして建設工事費を計上するというようにしております。

写真は、完成イメージで、今後修正する可能性があるということです。

次に、新学校給食センターです。

令和9年9月からの供用開始に向けまして、給食の配送業務のほうの委託事業者の選定、これに速やかに着手するために債務負担行為を計上するということです。

次に、職場の環境改善です。

皆さんご承知のとおり、これに力を入れていただいているところの中で、再発防止プロジェクトチームから提言された多面評価の導入など人事評価の見直しについて、人事評価プロセスの最適化に対応するシステムを導入するというものです。

それから、ハラスメントに関しましては、相談しやすい環境を整えるということで、外部相談窓口の設置、それからハラスメント判定への助言等を行う外部有識者への委託を行うということで、その費用として予算を計上しています。

その他ということで、主なものを2つ紹介させていただきます。

1つ目が、上下水道事業を持続的に、安定的に運営していくということで、上下水道分野の官民連携方式であるウォーターPPPの導入。これを敦賀市のほうで検討しているということは皆さんご承知かと思えますけれども、この導入に向けた公募資料作成支援業務というものの費用を計上するというようにしています。

それから2つ目に書いてあるのは、道路維持修繕等事業ということなんですけれども、これはどういうことかということ、公共事業なんですけれども、施工時期を平準化していきたいということがありまして、今回これで上げておりますけれども、道路維持修繕等事業ということで、道路の維持補修工事等を前倒しで発注するというための予算を計上するというものです。

以上、今回の補正予算ということで、主なものを紹介させていただきました。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。

最初に幹事社さんからなんですけれども、今日はいらっしやいませんので、次に各社様よりご質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

【記者】 西公民館の整備についてなんですけれども、移転新築とありますが、もともとどこだったところに、新しくどこに建てるというイメージなのでしょうか。

【市長】 新しく建てる場所というのは、敦賀病院がありますけれども、その斜め向かいのところで、ちょうど敦賀病院の駐車場だったところになります。

これが新公民館で想定している場所なんですけれども、今あるのは、三島にJAさんが建物があるのはお分かりになりますかね。あそこの川側のところに西公民館というのがあります。

【記者】 今ご説明がなかったですけれども、予算で、ふるさと納税の寄附金が当初予算の想定を超える見込みということで、80億円に増加補正といいますか、30億円ほど上振れるということだと思えますけれども、これはもう今年度はそれぐらいの額で着地するだろうということなんですか。

【市長】 今のペースを見ていると、それぐらいに落ち着きそうだというか、ありがたくご寄附をいただくということに予測しているという感じですね。

【記者】 仮に80億円ぐらいだと、過去最高ではないですよ。

【市長】 過去最高にはならないですね。なので、今80億と書いていますけれども、そこから上振れればまた別かもしれませんけれども、今言った80億円ということと言うと、それよりも高い年はありましたということです。

【記者】 あとハラスメントの外部相談事業ですけれども、今回、関係予算を計上されていて、議会での審議を経てということだと思いますけれども、大体めどとしては、いつぐらいに開設というんですかね、設置時期としてはどれぐらいを見通していらっしゃるんですか。

【市長】 まだ外部相談ということで、例えば弁護士さんだったりとか、その確保の話があるので、いつということではないんですけれども、我々の議論の中では、例えば年度初めからでもいいんじゃないかとかいう中で、今回補正で盛ったというのは、できるだけ早くしたいという思いはあるということで、4月をめどに、先ほど言った外部の側の人をどうするかとか、そういう相談も並行して進めているということです。

【記者】 市外の弁護士さんを1人と思えばよろしいですか。

【市長】 結果としてはそういうことになりますね。

【記者】 今の質問に関連してなんですけれども、ふるさと納税が30億円増えるというのは、何が好調で増える見込みというか。

【市長】 これも例年どおりなんですけれども、敦賀のふるさと納税の場合は、海産物やはり一番人気があるということです。カニだったりエビだったり。

【記者】 それが極端に今年は何かまた。

【市長】 いえ、昨年も84億で、今年が特別増えたわけではないんですけれども、当初予算の段階で、いろんなことも考えながら堅めに50億で大体見積もっているというところで、ずっと年間ペースを見ていたときに、例年並みの80億ぐらい行くだらうなというところで、今回、補正予算を上げた。そういう経緯になります。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

ございませんでしたら、次にフリーの質問対応に移りたいと思います。幹事社様がいらっしゃいませんので、各社様より質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

【記者】 ハラスメントについて、遺族さん側と市側の賠償をめぐる交渉が始まったとお伺いしているんですけれども、進捗のほうはどうなっているか、ちょっとお教えいただきたいです。

【市長】 今もうそういう、お互いに代理人を立ててお話をさせていただいているというところまでですね。だから、その話し合いで、今ここまで来ましたとか、そういうところはちょっと差し控えさせていただきたいと思います。

【記者】 どれぐらいで結論が出るとかというのは。

【市長】 それも正直まだ分からないです。分かっている言わないというより、まだ分からないです。

【記者】 あと、12月8日で、もんじゅの火災、ナトリウム漏れ事故から30年がたつということで、30年たつということで、改めて受け止めというところと、あと、これから機構さんであれば新しい試験炉の建設というところに向けて動き出していくと思うんですけれども、そこに向けた期待みたいなのところもお教えいただきたいです。

【市長】 30年だから、私そのとき敦賀にいなかったんですよね。ニュースで見て、あの事故の教訓というのは、すごく今の原子力行政にも大きい、例えば情報の開示の仕方

あったりとか、そういうところでいうと非常に大きい影響があった事故だなということを振り返ってみると思います。

そういうところを踏まえて、今の原子力行政とか、あと、東日本大震災だったりとかそういうことを踏まえて、今の積み重ねられた原子力行政の在り方だったりとか規制の在り方だったりというものがあるなというのを振り返ってみると、今言われて思ったことですが、けれども、そういうことを思います。

我々は今、例えば、新しいエネルギー基本計画の中で原子力を最大限活用という中で、そうした蓄積をしっかり踏まえて、それこそ安全を最優先にして原子力発電所をやっているのであれば、しっかりと対応していくべきだというのが、まさにあの事故の教訓であると思いますし、機構さんにおいては、新試験研究炉ということは今検討されているし、それから廃炉のほうも、これも工事があるわけで、作業があるわけで、そういうところには必ず安全上のリスクというのはあると思うんですね。そういうところには、今申し上げたような蓄積をしっかり生かしていただいて、大前提である安全というのを確保していただきたいなと思っています。

その上で、新試験研究炉に関しては、期待というものも申し上げられるのかなと思いますので、そうした基盤というものを、あの事故などの教訓を生かして基盤をしっかりつくっていただきたいなと思います。

【記者】 先日、市に対してというか、議会に対してでしたけれども、高校生から請願がありまして、少年自然の家ということで、以前質問もさせていただいて、やはりいろいろ難しいところもあるというのは存じ上げた上でですけれども、地元のことを一生懸命考えて、提案もしたり、資金集めだったり、人を増やす方策とかそういうのも提案しているところで、これから、基本的には議会に出された請願ですけれども、どういうふうに扱っていくというか、どんなふうに向き合っていきたいかなというところをおっしゃってください。

【市長】 まず、ああいうふうに、今回、高校生は、きっとほかのことでいろんな話し合いをして、いろんな提言とかそういうことをしていただいている。そういうことを議論して敦賀のことを考えていただいているというのは、すごくありがたいことだなと思いましたが、そういうのを活発化していくといいのではないかなというのは率直に思いました。

その上で、自然の家の個別の案件のことで言うと、それは何ていうんですかね、答えは我々としては同じになってしまうんですね。

例えば、ここに何かそういうことの要望、自然の家を残してほしいという要望の紙があって、裏に差出人があって、パッと見ていたらそれが議会からのだったら、この前の議会で答弁したとおり。それが高校生だったら答えが変わるかというところ、ここで答えが変わってしまったら、議会の人にも失礼だし、それを我々ずっと考えてこのようにせざるを得ないというところを出した結論なので、高校生の人に言われても、そこはお相手に丁寧に説明するという事ではないかなと思っています。

私も今回、今日、議会が告示になったので、請願とかも文書を見たんですけども、施設を残したいというのは分かるんですよね。それは自然の家だけではなくて、ほかの各公共施設でも、これからスクラップ・アンド・ビルド的なことをやって、スクラップ側のほうは必ずこんな話が出てくると思うんです。ただ、そのときに、やはり我々が考えなければいけないのは、例えば自然の家、説明が繰り返しになるんですけども、安全に使っていただくために今の現行施設を補修するためには、やはり5億円超はかかるだろう。5億円超ということは、あれは古い施設なので、すごく補修費がかかるんですけども、昔だったら一つ公民館を建てられたくらいの、昔というか、つい数年前に建てた公民館でも5億円くらいなので、それくらいのお金がかかってしまうんですよね。

加えて、補修しても、その後、躯体自体はもうそんな長くもたない建物なんですよ。

それを今度建て直すということになったら、前は十何億みたいな試算をしましたがけれども、最近のさっきのいろんな公民館関係とかでもそうなんですけれども、資材高騰による建設費の増加というところに行ってしまうと、多分本当にどうですかね、20億前後は軽くかかってくるようなことになってくる。

実際の利用者というのは、ピーク時で、できた当初だと1万8,000人くらい延べ人数でいて、去年は4,000人台だったと思うんですよね。

高校生の方も、それから今まで議会でも、一緒に人を増やすことを考えていこうよとは言っていたているんですけども、増やしても、それが倍になったって1万人に行かないし、3倍になったとてみたいところで、さっき言った5億円なり、あるいは20億円なりをかけるというのが我々の判断として正しいかどうかというところ、それはちょっと難しいなというのが我々が考えてきたところだということを、これまでも議会で同じような話をしているんですけども、高校生の方にも、もしそうやって話す機会があったら同じことを言うと思います。違うことを言ったら、本当に逆に議員の皆さんに失礼だし、同じことを言うと思います。

その上で、さっきの話で言うと、公共施設として、どういう施設を持って、どういう施設を持たないかというトータルで物事を考えていくようなところまで議論ができたらいいいのではないかなと思っています。

一つ一つの施設のことを言うと、必ず残したいという声は上がると思うんですね。それに対しては、我々は、これからもそういうことが起こると思うので、丁寧に説明はしていきたいなとは思っています。

【記者】 まだちょっと先の話で恐縮ですけども、国のほうでも経済対策、お米券であったりデジタル商品券みたいなものとかそういったもの、推奨メニューみたいな形でも報道等であれなんですけども、敦賀市さんとして、まだ国のほうの予算も決定したわけではありませんけれども、現時点で何か、まだ会議もしていませんけれども、開会中、開会後を含めて、追加の経済対策みたいなものを打っていくようなお考えというのはあるのでしょうか。

【市長】 それは本当に国の経済対策、今日、閣議決定でしたっけ。それを見て、市としてもしっかり考えていかなければいけないなという話は既にしていて、問題はタイミングなんですよ。もし可能であれば、12月議会に上げるということも考えなければいけないと思いますし、我々もできることはなるべく早く、国も多分その姿勢だと思いますので、それには対応していきたいなと思っています。

【記者】 幾つかメニューがある中で、一つだけ捉まえて言うのもあれなんですけど、お米券がよく報道等でも取り上げられることが多いのであれなんですけども、県内の自治体でもやっていらっしゃる自治体はあるかと思うんですけども、お米券については、消費者の方も関心も一定程度あるのかなと思うんですけども、それについての市長の現時点でのお考えというか、どうでしょうか。

【市長】 幾つか多分、推奨メニューで出てくると思うんですね。そのうちの中にお米券が入ってくるかどうかというのはまだ分からないですけども、推奨メニュー全て含めて、僕らは検討していくということになると思います。

その中にお米券が入っていたら、それも含めて。それはお米券だけ特別取り出して今言ふとあれですけども、ほかのメニューもいろいろ出てくると思うので、ひっくるめて、どれが敦賀にとっていいのかなということで検討したいなと思っています。

今の段階で、まだ正直、これが推奨メニューになるのではないかなというような話は、中ではしているんですけども、どれというところまで我々も話できていないです。

【広報広聴課長】 ほかございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

ありがとうございました。

午前11時23分終了